No. 114 August 2021

AAINews

人と農と環境をつなぐ技術を考える

国際耕種株式会社
〒194-0013
東京都町田市原町田 1-2-3
アーベイン平本 403
tel　042-725-6250
fax　042-785-4332
mail aai@koushu.co.jp
URL www.koushu.co.jp

# 様々な人々に支えられてこその海外技術協力

## -パキスタン国での長年の技術協力で知り合ったドライバーのことに触れつつ-

この AAINews をご覧いただいている諸兄には、私共以上に途上国に長期間滞在されて技術協力に携われた豊富な経験をお持ちの方も多いことと思います。“技術協力”である以上、相手国側への技術移転が主目的であり、具体的な協力対象者あるいは協力者としてカウンターパートが任命されていたことでしょう。技術分野を共有する彼らとの、濃密で実り多い共同作業の経験をお持ちだと思います。

私たち国際耕種の社員たちも、これまで体験した国々・地域での技術協力の機会を通じて、その時々で行動を共にしたカウンターパートたちとの技術的な交流がありました。また、その交流を基盤として、今も折に触れてその国々における現状の技術的課題や新技術の情報共有を行っているところです。海外における技術協力は、その目的から見ても当方と先方側技術者、特にカウンターパートたちとの関わりが主軸になることは当然のことであり、彼らとの係り方は技術移転を成功させるための重要なテーマでもあります。そのことは AAI News の別の機会に議論していきたいと考えていますが、本稿では、その視点からは少し離れて、広い目で見た「技術協力を支えてくれる現地での様々な人々」に触れておきたいと思います。

技術協力の現場では、技術移転に直結する活動の背景に、それらを成り立たせるための間接的な様々な準備や努力が必要です。技術協力では、現地の人々を雇用して様々な作業に関わっていただいていることを忘れてはなりません。ここで紹介させて頂くのは、パキスタン国で出会い、同国で30年近くも何らかの技術協力関連プロジェクトの現場を共にしてきたドライバーです。彼、ナザールは、我々国際耕種がパキスタン国で関わったほぼすべてのプロジェクトにドライバーとして行動を共にしてきました。ドライバーですが、間接的に我々の協力事業を陰で支えてくれました。悪路の中で無謀な対向車に接触され、我々の車が川底に転落した時のこと、負傷を負い運転席に挟まれながら彼が最初に叫んだ言葉は、「日本人のみんな、大丈夫か！」でした。滞在地近くでテロが発生し不穏な空気が漂う中、その現場の状況をいち早く察知し、最も素早く、最も安全な退避場所に誘導してくれたのは彼でした、等々。彼の親身で誠実な行動は語り尽せないほどです。

我々も彼を愛し、彼も“我々日本人”を篤く慕ってくれました。一昨年、国際耕種は「是非一度本邦を見せよう」と日本に招待したりもしました。

パ国現場で、若かりし頃のナザール

来日時に、日本国内でくつろぐナザール

その彼が、昨年９月突然亡くなってしまいました。我々は、彼を失って改めて彼の得難い貴重な存在を思い知ることになりました。

とかく技術協力といえば、密に技術面で交流がなされるカウンターパートを思い浮かべがちです。しかし、技術協力の現場は、その他の様々な人々との良好な関係の下、彼らの協力に支えられて成立していることは間違いありません。彼・ナザールの死は、そんな技術協力における当然の事実を、改めて感じさせられる出来事でした。

（2021 年 8 月 松島）